

発言通告書の要旨(一般質問)

平成27年第1回定例会

質問日	質問順	議席/氏名	件名	要旨	
3月9日	1	16 鴨田 信	1、三豊市の20年後の市の姿と今後の財政について	(1)横山市長が描いている20年後の三豊市の姿を伺う。 (2)三豊市の今後の財政推移について伺う。	
			2、市道加茂長池、上分祇園線の改良について	市道加茂長池線の沿線に広域北消防署は現在建設中であり、また、西高グラウンドへの三豊警察署の移転が県において決まったようである。市道加茂長池線及び市道上分祇園線を緊急自動車の走行が一段とふえると思われる。歩行者等の安全のために市道上分祇園線及び加茂長池線の一部を改良してはどうか伺う。	
	2	9 浜口恭行	1、バイオマス産業都市について	施政方針にもある「バイオマス産業都市」について、指定を受けた後の取り組みと成果、バイオマスの利活用による産業都市、循環型環境都市の実現に向けた取り組みについて、市長の見解を聞く。	
			2、新公立病院ガイドラインについて	現在、総務省は、平成26年6月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2014」に基づき、新たな公立病院改革ガイドラインの策定に向けた準備を進めている。平成19年に出された公立病院改革ガイドラインの成果と今回の新たなガイドラインの方向性、我が地域の病院、特に市立永康病院の収益改善と生き残り策について、市長の見解を聞く。	
	3	4 石井勢三	1、三豊市観光の発展計画について	三豊市の発展として観光は、非常に重要な事業であると思われる。現在、日本への観光は、海外からの入国等で、活気をあび、経済効果を上げている。効果を地方へと波及するような研究・努力が必要であるが、三豊市内の観光としての拠点、そして集客となる素材などについて、今後の方針についての考えを伺いたい。	
			2、老朽ため池整備計画について	今後、おこりうる大規模地震やゲリラ豪雨等の、自然災害に対する老朽化ため池の耐震化等の整備について伺いたい。特に遅れていると考えられる中小規模のため池に対して、住民の防災意識の高まりや、ため池整備にかかる受益者の負担軽減などから、ため池整備の要望は、増加していると思われる。今後の、整備計画について伺いたい。	
	4	11 川北善伴	1、新たな教育委員会制度における市長の役割について	4月から予定されている新たな教育委員会制度について、市長はどのように進めるのか。	
			2、地域活性化と誘客について 1)瀬戸内国際芸術祭2016について 2)粟島・荘内半島の活性化と誘客について	(1)今年度から「瀬戸内国際芸術祭2016」に向けどのようなPR及び地域活性化を目指していくのか。 (2)粟島・荘内半島を初めとした市内への観光誘客活動をどのように推進していくのか。	
	3月10日	5	20 近藤久志	1、津波・高潮対策と水族館の誘致について	市民の関心は、水族館誘致にあるが、津波・高潮対策整備計画の進捗と誘致活動について伺う。 ①企業立地促進用地として、水族館誘致の実現を目指すには、津波・高潮対策の護岸建設整備(防潮堤)が先行させるための、計画と事業完成年度と事業費など、県との協議進捗について ②これからの防潮堤建設整備、水族館誘致活動について
				2、市道と交差する鉄道踏切の改修計画について	(1)安全確保から、早急に改修を行わなくてはならない踏切があるが、市民からの要望件数とJRとの協議見込み箇所について (2)国などの事業費補助制度について
		6	2 大平敏弘	1、公共施設再配置計画	平成25年策定の「公共施設再配置計画」平成26年の進捗と平成27年度の気構え
				2、市長のちょっといい話 全国学校給食研究協議大会 仁尾小学校文部科学大臣賞受賞	市長が仁尾小学校に行って、最高の給食と最高の笑顔をいただいた、その後の取り組みは
3、地域の青壮年に対する取り組み				地域づくりは、人づくりからと昔から言われているが、青壮年組織活性化の姿勢は行政として組織の把握 地域青壮年代表の市規模交流会	
4、市職員 削減計画				合併算定替終了時の適正規模は	
5、聖域なき見直し				職員から提案されたものは	

発言通告書の要旨(一般質問)

平成27年第1回定例会

質問日	質問順	議席/氏名	件名	要旨
3月10日	7	6 水本真奈美	1、防災・減災に資する路面下の空洞調査について	道路の空洞調査について ①路面下及び橋梁等の空洞の危険性をどのように認識、②空洞化の原因、③全国の陥没事故の実態、特に本市での陥没数や事故の状況について、④国が現在実施しているマイクロ波を活用したスケルカ手法による空洞対策について、⑤南海トラフ地震対策として国の「防災・安全交付金」を活用した緊急輸送路や幹線道路の調査実施の考えを伺う。
			2、ロタウイルスワクチン接種について	ロタウイルスは5歳未満の乳幼児におけるウイルス性胃腸炎の主な原因微生物であり、5歳までにほぼすべての小児がロタウイルスに感染し胃腸炎を発症すると知られている。発症すると急激に脱水症状が進行し入院治療を要する場合が多く、脳炎や脳症などの重篤な合併症を起こすこともある。ロタウイルスワクチン接種による予防が最も重要な感染制御のための方策となる。本市のワクチン接種の状況と公費助成の考えを伺う。
	8	15 金子辰男	1、スポーツ振興とスポーツ観光について	(1)宝山湖周辺で開催される三豊サイクルロード、今回は6回目を迎える自転車競技である。子供たちからアスリートまで多数の参加がありこれからも発展していくスポーツ振興と地域活性化を併せ持ったイベントである。このようなスポーツを舞台とした観光振興はできないのか。三豊市への誘客推進のきっかけをつくることはできないのか。 (2)県もジュニア育成には大変熱心に取り組んでいる中で、市の取り組み状況、支援対策はどのようになっているのか。
			2、国の天然記念物コウノトリの飛来について	(1)国の天然記念物コウノトリが、市内のため池に飛来してきた。季節・時期、見物客数、地域住民の対応反応などを市は把握しているのか。その時の対応はどうだったのか。 (2)今年も飛来したと想定しての対応、官民一体となり観光スポットとして保護に取り組む考えはないか。豊岡市と提携し、コウノトリの四国拠点として観光PRしていく考えはないか。
			3、不審者からの子供の安全を守るための強化策について	近年頻繁に発生する子供たちの事件。子供を守るための強化策や、未然防止策はどのように考えているか。
	9	1 岩田秀樹	1、市長は教育再生首長会議に参加すべきでない	「教育再生首長会議」への参加はこれまでの立場と矛盾するものであり、今後は参加すべきではないと考える。
			2、公共施設の建設・改修後の点検の実施、次回建設への反映はどうしているのか	公共施設何か所か建設してきたが、どのように点検、見直しをしてきたのか。建設工事の成果などを次回にどう反映させようと考えているのか。
			3、18歳までの医療費無料化実現に全力を	香川県は、移住・定住を推進している。この政策を成功させるためには、子育て環境の一層の充実が求められる。県下最大の人口を抱える自治体が中卒までの医療費の無料化をすすめる方向となっている。こうなれば県としても現在の就学前までの年齢を引き上げる条件が整ったといえるのではないか。子供の医療費無料化を就学前までから中卒まで充実することを県に求め、一層三豊市の医療費窓口無料化を進めていくことについてどう考えるか。
			4、防潮堤施設整備状況について	「津波・高潮対策整備推進アクションプログラム」三豊市における、策定された沿岸部の対象延長と整備済みの割合はどのようになっているか。民間所有地で堤防強化できていない延長はどれだけあるのか。未整備対象地区は今後どうしていくのか。
			5、防災情報の共有化について	電柱やブロック塀に標高表示、HPで行われているが、防災情報の集約を行い三豊市のページを開ければすぐわかる状況にすべきではないか。
	10	13 三木秀樹	1、自主防災組織の「避難体制について」聞く	「避難所開設時の食料・水・生活必需品・資機材等の整備を計画的に進め」(施政方針)とのことだが、具体的にどのように進めるのか、その構想も含めて聞く。
			2、地域支援事業の充実に向けての進捗と課題を聞く	(1)昨年9月議会で「生活支援コーディネーターの配置が、サービス提供体制の整備を円滑に移行させる鍵」との答弁だったが、その配置をどのように考え進捗させているのか。 (2)28年度から開始される総合事業に向けた整備の進捗と要支援1・2と『それ以外』のチェックは、どこで、誰が、どのような判断で行いサービスを提供するのか。
			3、「経費が安価で、みんなが参加できる、新しい公共サービス」(施政方針)に「逆流」しているのでは？2点聞く	(1)28年開始の南部給食センターは、「食の安全を確保できなくなる不安を解消するため」と、公設公営一部民間委託方式で、そこに調理職員の大半をしめる臨時職員を『配置したい』との構想。その人件費は、現在の場合(公設公営)の人件費より「高くつく」にもかかわらず、行うのはなぜか。 (2)28年度中の稼働に向け「バイオマス資源センターみとよ」は民設民営で準備を進めているが、平成24年5月の協定が反故にされないかと心配。あらためて当局の考えを聞く。
			4、「史実を学び平和を祈念するイベント」(施政方針)を聞く	戦争の反省から生まれた現憲法をゆがめ、国の暴走を戒める立憲主義を空洞化しようとする昨今、「戦争の記憶を風化させてはならない。今われわれができることは、戦争を二度と繰り返さないよう、先人が経験した史実を学び語りつぐ」(施政方針)ことの企画に賛同し、その具体的取り組みの進捗状況を聞く。